

大阪大学核物理研究センター研究計画検討専門委員会議事録

日時：平成31年4月24日（水）

場所：核物理研究センター 本館二階会議室

出席者：

- 委員：青井考（RCNP）、秋宗秀俊（甲南大）、板垣直之（京大）、伊藤正俊（東北大）、神田浩樹（RCNP）、木村真明（北大）、小汐由介（岡山大）、下村浩一郎（KEK）、民井淳（RCNP）、塚田和明（原研）、野海博之（RCNP）、萩野浩一（東北大）、福田光宏（RCNP）、前田幸重（宮崎大）、吉田賢市（京大）
- センター長：中野貴志（RCNP）
- オブザーバー：梅原さおり（RCNP）、保坂淳（RCNP）

欠席者：

- 石井理修（RCNP）、今井伸明（東大 CNS）、関口仁子（東北大）、常定芳基（大阪市大）、兵藤哲雄（首都大）、若狭智嗣（九州大）

新委員長、幹事の選出、委員紹介、B-PAC/Q-PAC 委員選出

- 委員の互選により、新年度の委員長（伊藤）、センター外幹事（今井）、センター内幹事（神田）を選出した
- B-PAC/Q-PAC の委員選出のガイドラインに関する議論を行い、2019年度から始まる国際共同利用・共同研究活動に関する審議を委任する委員の選出に、これまでのガイドラインが引き続き有効であることが確認された
- B-PAC/Q-PAC とともに2018年度と同一の人数とすることとした。外国人委員についてもB-PACはこれまで通り3人、Q-PACには外国人委員を含まないこととした。
- B-PAC 委員として新たに A. O. Macchiavelli 氏（LBL）を推薦した
- B-PAC 委員の P-PAC 委員枠として、前田氏（宮崎大）、関口氏（東北大）、萩野氏（東北大）、吉田氏（京大）、下村氏（KEK）、秋宗氏（甲南大）を推薦した
- センター長・委員長にその他6名のB-PAC委員の推薦を依頼した
- Q-PAC 委員として2018年度と同じく居波氏（名大）、成木氏（京大）、酒見氏（東大 CNS）、浜垣氏（長崎総合科技大）、佐々木氏（東北大）、慈道氏（東工大）を推薦した
- Q-PAC 委員のうちの P-PAC 委員枠として成木氏（京大）を推薦し、P-PAC 委員にも推薦した

報告事項

1. 一般報告（中野センター長）

- 共同利用・共同研究拠点の中間評価でS評価を獲得し、さらに国際共同利用・共同

研究拠点に認定され、「国際サブアトミック科学研究拠点」を発足した。認定期間は 2021 年度末まで。

- AVF 更新作業は、現状では 2021 年 3 月末に完了予定。本格的なビームを用いた共同利用再開は 2021 年度半ばになる予定。
- 重点支援によって以下の効果が拠点に期待されている：
 - コミュニティに対する貢献
 - 国内連携の規模の 10 倍以上の規模の国際大型プロジェクト
 - 海外機関との連携
 - アルファ線核医学治療、ソフトウェア評価技術等産学連携、知財運用による財務基盤強化
- 平成 31 年度の課題
 - 国際共同利用を進展させ、加速器停止期間の共同利用アクティビティを維持する
 - 概算要求はセンター側でとりまとめ、次回の研計委にて議論する。

2. 一般実験費決算報告（青井）

- ビームの利用に関連して検出器、DAQ 整備などに使用。平成 30 度は半年のみの運転を予定していたため緊縮予算であり当初配分額は 15,800 千円であった。しかし運転期間が伸びたために予算を超過して支出することとなり執行額が 23,967 千円となった。
- 一方で、運転期間の延長により、ユーザーよりシャットダウン前に実施を希望された実験の多くを実施することができた

3. 研究会報告（神田）

- 平成 30 年度後期に実施された 4 件の研究会についての報告があった
- すでに採択された 2 件（NNR19, OMEG15）の研究会が平成 31 年度に予定されている

審議事項

1. 国際共同利用の公募内容に関して

- 国際共同利用・共同研究拠点の重点支援の継続が重要であり、2022 年度からの第 4 期中期目標期間も拠点としての継続が認められるよう、国際共同利用の強化を図る。
- 評価は大部分が KPI(Key Performance Index)に基づく。KPI の例は以下のとおり：
 - 共同利用公募に対する応募数、実施数
 - ユーザー数、うち国外ユーザーの割合
 - 論文数
 - 博士号取得者数

- ビーム利用再開までの期間の共同利用・共同研究を維持するために、LEPS および神岡の共同利用の強化・見える化、他機関との協力・連携、理論研究への補助の推進、汎用大型計算機の共同利用を推進する。
- RCNP 側からユーザーに場所、機器等を提供して実施する研究を共同利用と定義する。RCNP の機器やビーム開発を実施する研究（GR の機能改善・強化、MuSIC ビーム開発、イオン源開発）は RCNP が自ら果たすべきミッションであり、ユーザーが参加したとしても国際共同利用とはみなさない。
- 外部研究機関のビームタイムに RCNP の枠を設ける準備は進行中。次回の P-PAC にて審議する。
- 研究会補助については一部の研究会が理論共同利用の枠内で実施される可能性があるが、引き続きこれまでに準じた募集を行うこととし、速やかに募集を開始する。原則的に PPAC で審査するが、急いで審査を希望する申請についてはメールによる臨時審査を行う。
- 各研究部門の提案する共同利用案の審査結果は次ページの表 1 のとおりとする。各研究部門で公募文面を用意し、PPAC にて審議の後に速やかに募集を開始する。

次回日程（神田）

8月から9月を目途に日程調整を行う。

今回は概算要求に関する議論も実施する。

表 1 共同利用案の一覧

研究部門	活動内容	採否	審査委員会	審査頻度	備考
LEPS/LEPS2	LEPS/LEPS2のビームを用いた共同利用	採択	QPAC	2回/年	
	近い将来の利用予定の無い機器の貸し出し (技術協力を伴う)	採択	QPAC	2回/年	機器リスト、貸し出し窓口を整備
	近い将来の利用予定の無い機器の貸し出し (技術協力を伴わない)	採択	PPAC内小委員会	随時	機器リスト、貸し出し窓口を整備
非加速器	地下実験施設の低バックグラウンド環境の利用	採択	PPAC	3回/年	宇宙線研の共同利用研究枠を確保しておく
	地下実験施設におけるガンマ線・アルファ線検出器の利用	採択	PPAC	3回/年	宇宙線研の共同利用研究枠を確保しておく
サイクロトロン実験	CAGRA, Tracking Ge, Maiko, SUNYのGe 検出器の利用	採択	BPAC	2回/年	WGにて詳細を調整する
	付帯装置の貸し出し (技術協力を伴う)	採択	BPAC	2回/年	機器リスト、貸し出し窓口を整備
	付帯装置の貸し出し (技術協力を伴わない)	採択	PPAC内小委員会	随時	機器リスト、貸し出し窓口を整備
	すでに論文発表を済ませたデータの公開	保留			次回PPACまでに具体案を提案
MuSIC	TRIUMFにおける実験支援	採択	BPAC	2回/年	田島実験はBPACで採択済み実験の延長なので改めて審議は不要である
	MuSIC実験機材の貸し出し	採択	PPAC内小委員会	随時	機器リスト、貸し出し窓口を整備
短寿命RI	科研費の無い研究課題への支援	採択	RIPF課題審査委員会	2回/年	
	RI棟の施設利用	採択	RIPF課題審査委員会	2回/年	
理論	TRICKLE	採択	PPAC任命審査委員会	2回/年	WGにて詳細を調整する。理論と実験の共同、実験のみも対象に含む。
計算機	バッチキューの新設等リソースの優先提供	採択	PPAC	3回/年	
加速器	イオン源による低エネルギービームの利用	採択	BPAC	3回/年	供給可能ビームリストを整備。需要が高い場合は、AVFサイクロトロン稼働後も利用可能とする
	イオン源、ビーム機器貸し出し コミッション時のビーム利用	採択 不採択	PPAC内小委員会	随時	機器リスト、貸し出し窓口を整備 教育目的、検出器開発等に限る？